

(35)

氏名(生年月日)	キ 木	ムラ 村	クケン 健
本籍			
学位の種類	博士(医学)		
学位授与の番号	乙第1381号		
学位授与の日付	平成5年7月16日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)		
学位論文題目	粘液産生膵癌の臨床病理学的研究		
論文審査委員	(主査) 教授 羽生富士夫 (副査) 教授 小林 楨雄, 相川 英三		

## 論文内容の要旨

### 目的

膵管内発育増殖を特徴とする黒田I型の粘液産生膵癌は、浸潤傾向が少なく比較的予後良好な膵癌とされてきたが、症例の集積にともない周囲への浸潤やリンパ節転移を示す悪性度の高い、予後不良なものもみられるようになり、慎重な臨床的取扱いが必要となってきた。しかしながら、その臨床病理学的特徴は、十分に解明されておらず、腫瘍か非腫瘍かの鑑別診断、腫瘍の悪性度診断、また悪性例の組織学的進展様式など、治療方針の根幹にかかわる問題点が未解決であった。そこで著者は、黒田I型の粘液産生膵癌の臨床病理学的研究、とくに組織学的進展様式において腫瘍の肉眼型と浸潤、リンパ節転移の有無に着目した分析を行い治療方針を決定する上で有用な新知見をえた。

### 対象および方法

教室で切除した黒田I型に属する17例を対象とした。

1. 臨床的事項の検討。1) 年齢、性差、発生部位、2) 臨床症状、3) 手術成績

2. 病理学的事項の検討。切除標本を20%ホルマリン固定後、5mm間隔の全割切片を作製し、Hematoxylin-Eosin染色後ルーベ像で polypoid型(腫瘍の膵管内増殖部の高さが3mm以上)10例と flat型(腫瘍の膵管内増殖部の高さが3mm未満)7例の2型に腫瘍の肉眼型を分類し、光顕的に検討した。1) 膵実質への浸潤、2) 主膵管での尾側膵管内進展、3) リンパ節転移、4) 組織学的諸因子と術後遠隔成績の関連

### 結果

### 1. 臨床的事項

1) 年齢は46~86歳。平均64歳、男女比は14:3、発生部位は頭部16、体尾部1であった。2) 臨床症状は一部重複も含め、腹痛58.8%、背部痛35.3%、他に発熱、糖尿病悪化、黄疸がそれぞれ5.9%であった。無症状も3例(17.6%)にみられた。3) 手術死亡はなく、術後合併症(胆腸吻合部狭窄)は2例であった。

### 2. 病理学的事項

1) 膵実質への浸潤は17例中4例(23.5%)に認めた。flat型の7例には浸潤は1例もなく、polypoid型10例中4例(40.0%)に浸潤を認めた。2) 主膵管内での尾側膵管内進展は17例中16例(94.1%)が嚢胞内あるいは嚢胞の辺縁から5mm未満にとどまり、polypoid型とflat型で差はなかった。3) リンパ節転移は2例(11.8%)に認めた。flat型にはなく、polypoid型10例中2例(20.0%)のみに転移を認めた。4) 術後観察期間は7カ月から7年3カ月であり、polypoid型で実質浸潤を有しリンパ節転移陽性の1例が1年5カ月で病死したほかは、全例生存中である。

### 考察および結論

粘液産生膵癌17例の臨床病理学的研究の結果、腫瘍の肉眼型でflat型には膵実質への浸潤、リンパ節転移はなく、polypoid型のみ膵実質への浸潤(40.0%)、リンパ節転移(20.0%)が認められたという新知見は、粘液産生膵癌の外科治療方針のみならず、腺腫、過形成といった良性の粘液産生膵病変の臨床的取扱いの上でも、きわめて有用な指標となりうるものと考えられた。

## 論文審査の要旨

粘液産生膵癌は1980年大橋によって初めて報告された新しい疾病概念である。そのうち黒田の分類I型のは報告例は未だ100例に満たない。その特徴は浸潤傾向が少なく予後も良好とされてきたが、なかには通常の膵癌と同様に予後不良のものも知られるようになり、慎重な臨床的取扱いが必要になってきた。

本論文は、切除17症例の詳細な臨床病理学的検討により、腫瘍の肉眼型でflat型には膵実質への浸潤、リンパ節転移を全く認めないのに対し、polypoid型ではこれを認め、悪性度の高い型であるという新知見を明らかにし、治療方針決定の上で極めて有用な指標を示した。临床上、学術上価値あるものと認める。

### 主論文公表誌

粘液産生膵癌の臨床病理学的研究

臓腑(日本臓腑学会誌) 第8巻 第1号 1-10  
頁(平成5年2月25日発行) 木村 健

### 副論文公表誌

- 1) 肝部下大静脈内腫瘍塞栓を伴った腎細胞癌の1手術例. 手術 42 (12): 1773-1777 (1988) 木村 健, 高崎 健, 武藤晴臣, 済陽高穂, 山本雅一, 小林誠一郎, 羽生富士夫
- 2) 術前進展度診断からみた膵頭部癌に対する拡大手術の適応選択. 日消外会誌 25 (4): 1186-1189 (1992) 今泉俊秀, 鈴木 衛, 中迫利明, 松山秀樹, 原田信比古, 小松永二, 木村 健, 羽鳥 隆, 広瀬哲也, 新井俊男, 羽生富士夫
- 3) Solid and Cystic Tumor および非機能性ラ氏島腫瘍の検討. 胆と膵 12(4): 417-424(1991)
- 中迫利明, 羽生富士夫, 今泉俊秀, 鈴木 衛, 松山秀樹, 長谷川正治, 小形滋彦, 吉井克巳, 木村 健, 小松永二, 原田信比古, 羽鳥 隆, 神津忠彦, 土岐文武, 新井 信, 渡部英伸
- 4) 膵側に問題のある膵胆管合流異常の術式選択一術後5年以上経過例からみた検討一. 東女医大誌 61 (4): 343-349 (1991) 原田信比古, 今泉俊秀, 鈴木 衛, 中迫利明, 小松永二, 木村 健, 羽鳥 隆, 羽生富士夫
- 5) 膵頭十二指腸切除術後の膵腸縫合不全に起因する腹部大量出血例の検討. 日臨外医会誌 53 (11): 2638-2644 (1992) 小松永二, 今泉俊秀, 磯部義憲, 鈴木 衛, 中迫利明, 小形滋彦, 吉井克巳, 原田信比古, 木村 健, 羽鳥 隆, 羽生富士夫